

法人名：

株式会社 秋田ふるさと村

設立年月日 平成5年5月18日

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 栗津 尚悦	資本金	495,000千円	県出資等額及び比率	250,000千円	(50.5%)	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課					
設立目的	本県の文化遺産の継承、新たな郷土文化の創造拠点として、この二つの機能を十分に生かし相乗効果による県民文化の向上と地域産業の振興を図ることを目的に県等の出資により設立。												
事業概要	秋田ふるさと村の管理運営												
関連法令、県計画	なし												
役員数 (R5.7.1現在)	理事		監査役		評議員		計		職員数 (R5.4.1現在)	正職員	出向職員	臨時・嘱託	計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		15		15	30
	1	7		1			1	8	※役員と職員を兼ねている者の人数は、役員と職員の両方に計上し、職員数には括弧(内数)で表示。				

2 法人の行動計画(令和4~7年度)

県関与のあり方	縮小・廃止	経営状況	概ね安定	取組の方向性	・内部留保の積み増し
目標	○当面は新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しつつ、その収束も見通しながら(株)秋田ふるさと村のアクションプラン(2021-2025)に基づく取り組みを着実に進め、これまでの収支分析を踏まえ損益分岐点である入村者数60万人以上の集客を目指す。 【目標】目標入村者数 R4年度:50万人、R5年度:60万人、R6年度:65万人、R7年度:65万人				
取組	○R2年度末に策定した当社のアクションプラン(2021-2025)に基づく計画を基本に、各年度目標の達成に向けて次のような取組を進める。 [R4年度] 感染症の影響が残ることを踏まえつつ、リニューアルしたアトラクションの魅力発信、飲食部門の魅力向上や村内(物販エリア等)の改装、新たに環境整備を予定している屋外施設を活用したイベント等の実施、インバウンドを含む旅行需要の回復を見通した営業強化等に取り組み入村者数50万人を目指す。 [R5年度] R4年度の取組を継続しコロナ禍前と同等の入村者数60万人を目指す。 [R6年度] 上記取組に加え、開村30周年の各種アニバーサリー事業の展開、県立近代美術館の特別展との連携強化等により65万人の集客を目指す。 [R7年度] 上記取組を深化・成熟させながら65万人の集客を目指す。				

3 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度
売上高	453,829	499,319
売上原価	280,533	316,933
売上総利益	173,296	182,386
販売費及び一般管理費	198,842	196,231
人件費(売上原価含む)	123,657	115,138
営業利益(損失)	△ 25,546	△ 13,845
営業外収益	5,177	7,823
営業外費用	10	1
経常利益(損失)	△ 20,379	△ 6,023
特別利益	3,818	
特別損失		
法人税、住民税・事業税	3,488	3,591
当期純利益(損失)	△ 20,049	△ 9,614

②貸借対照表

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度
流動資産	603,738	588,507
固定資産	23,295	18,245
資産計	627,033	606,752
流動負債	80,328	69,795
短期借入金		
固定負債	21,824	21,690
長期借入金		
負債計	102,152	91,485
資本金	495,000	495,000
利益剰余金等	29,881	20,267
純資産計	524,881	515,267
負債・純資産計	627,033	606,752

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<主な経営指標>

項 目	令和3年度	令和4年度	増減※
経常収支比率 (経常収益÷経常費用)	95.7%	98.8%	+3.1
流動比率 (流動資産÷流動負債)	751.6%	843.2%	+91.6
自己資本比率 (純資産計÷負債・純資産計)	83.7%	84.9%	+1.2
有利子負債比率 (有利子負債÷純資産計)			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況(単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
32,002	19,313	60.3%

※養老保険に加入している。

③県の財政的関与の状況(事業費補助・委託を除く)

(単位:千円)

区 分	令和3年度	令和4年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

法人名：

株式会社 秋田ふるさと村

I 自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況	2 経営状況
<p>【令和4年度実績】</p> <p>○入村者数は47.8万人(目標:50万人)だった。</p> <p>○アトラクションの魅力発信に努めた結果、利用者数はワンダーキャッスル79,165人(前年度比113%)、スペースシア25,360人(同116.5%)、マックストレイン23,932人(同131.5%)でいずれも増加した。</p> <p>○飲食部門の魅力向上に努めた結果、直営レストランは観光食事等施設100選に選定された。なお、テナントの意向を踏まえて物販エリアの改装は延期した。</p> <p>○フラワーパークに関連したイベントを25日実施した。年間のイベント利用者は193,616人(前年度比140.6%)だった。</p> <p>○団体客26,342人(前年度比127.4%)で、うちインバウンドは653人(前年度0人)だった。</p>	<p>【令和4年度実績】</p> <p>○売上高は入場者数の回復等により472,147千円(県からのブラウワーパーク整備委託収入27,172千円を除く)となり、前年度より18,318千円増加した。</p> <p>○営業損失は前年度より半減したものの、全体の水道光熱費が18,074千円増加(前年度比123%)したこと等により13,845千円となった。</p> <p>○経常損失は前年度の3割ほどの6,023千円にとどまった。</p> <p>○上記により、当期純損失は前年度より半減したものの、9,614千円となった。</p>
<p>【自己評価】</p> <p>○行動計画にある各取組を実施したほか、インフルエンサーを活用した広告やLINE公式アカウントの作成等により情報発信に努めたが、コロナの影響が残り、目標までは及ばなかった。</p>	<p>【自己評価】</p> <p>○引き続きコロナ禍の中、集客・売上の増加に努めるとともに、組織の簡素化やイベント経費の精査等による経費の削減を図り、経常収支比率や流動比率等の経営指標は改善したが、水道光熱費増高の影響は甚大で3期連続の赤字計上となった。</p>
評価 B	評価 B

II 所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況	2 経営状況
<p>○コロナの第7波、第8波の影響があったものの、アトラクションの魅力発信や新たに環境整備をしたフラワーパークを活用したイベントの実施など施設の利用促進に努めた結果、入村者数は前年度比135.6%の47.8万人(目標50万人の95.6%)となり、概ね目標を達成している。</p>	<p>○売上高は前年より増加したものの、原油価格高騰等の影響により売上原価の増加がそれを上回ったことにより当期純損失を計上した。引き続き原油価格高騰等の影響が懸念されることから、今後も適切に対応していく必要がある。</p>
評価 B	評価 B

III 委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
B	<p>○入村者については、前年度から大きく回復しており、各種イベント展開については評価できる一方で、ふるさと村の設立目的やターゲットが曖昧となっている印象を受ける。</p> <p>○経営状況については、原油価格高騰の影響から赤字となっていることから、これに耐え得る法人の体質強化が求められる。</p>

【委員からの提言】

○入村者の維持確保のため、他施設との連携による教育利用の増加や秋田の風土・人・資源に特化したイベントの企画を期待する。

○今後も水道光熱費や人件費など、経費の増加が予想されることから、飲食店やアトラクション等の運営手法を見直すなど、抜本的な経営改革も検討していく必要がある。

委員会評価を踏まえた対応方針

法人の対応方針	所管課の対応方針
<p>○経営環境の変化や設立目的を踏まえつつ、次のような取組を進めて、集客・売上の向上に努め、黒字軌道への復帰及び経営の安定化に繋げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アトラクション等の施設各所の磨き上げや体験商品の開発、各種地域資源との連携、旅行・教育関係機関等への営業や情報発信等の強化に努め、フリー客はもとより教育利用やインバウンドを含めた団体客誘致にも力を入れる。</li> <li>・伝統芸能や食、自然など秋田の魅力発信に繋がるイベントの企画に努めるほか、集客力があり、村内に広く波及効果が及ぶイベントの開催や会場利用の誘致に一層注力する。</li> <li>・組織の簡素化やイベントの共催化等による管理運営経費の削減、テナント部門の充実に努めるほか、採算的に厳しい一部アトラクションや体験施設、直営レストラン等のあり方について検討を進める。</li> </ul>	<p>○光熱費等の高上がりの状況が続いていることから、経費の節減や業務の効率化を促す。</p> <p>○コロナ禍で落ち込んだ利用者の回復を図るため、ワンダーキャッスルやスペースシア等のアトラクションをリニューアルしており、引き続き、法人と連携して教育旅行やインバウンド等の団体客を中心とした誘客を促進していく。</p> <p>○横手市及び近隣の施設等との連携を促し、県南地域の観光の更なる活性化を図っていく。</p>